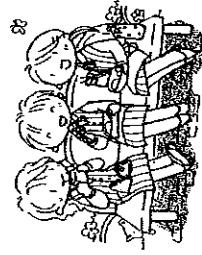


近畿のなかま

No. 3

2007・4・10

発行人
金融労連近畿地協
事務局長 福井悦雄



新人さんいらっしゃい

近畿でも新入行員(職員)対象に各地でPR

金融機関に新入行員(職員)が新しく入ってくる4月になりましたが、近畿の各地でも新人を対象に金融労連のPRを行ったり、組合加入を勧める取り組みが本格化しています。

休日の全行員集会以

603枚のリーフ配布

(近畿大阪銀行)

例年、新年度にあたって休日を利用して全行員を集め「綱紀粛正」の訓話などを実施している近畿大阪銀行では、今年も4月1日(日)に大阪の国際会議場で全員集会を行いました。

近畿地協では、さっそく会場で早朝宣伝行動を行い、金融労連のリーフ603枚を集会に参加してくる行員に配布しました。

近畿大阪銀行では、新年度からの時間外労働について、従来より上限時間を延長し、過労死ラインの月間80時間まで可能にする36協定(時間外労働に関する協定)を締結した企業内の多数派労組に対する批判も生まれ、私たちのハンドマイクでの宣伝にリーフの受け取りも良く、カバンに大切にしまいこむ姿が目立ちました。

この日の行動には、銀産労の大阪の仲間を中心に近信労や中央区労連の仲間12名が参加しました。



32名の新人職員対象に説明会

(京都北都信金)

京都北都信金では希望を抱き、男性職員13名、女性職員19名、合計32名の新入職員が入庫しました。

3月28日、新入職員に対する組合オリエンテーションで、金融労連の従業員組合と企業内の労働組合がそれぞれ組合のPRを行いました。

単組・地協の大会議案書や金融労連リーフなどを配布した従業員組合は、後藤委員長が「組合は困り事や悩み事の駆け込み寺であり、大いに利用して欲しい」と、全国・地域の仲間との共同・交流も含め労働組合の大切さを強調しました。

(4・1日曜日にもかかわらず
近畿大阪銀行全行員集会)

2006年度の初任給(近畿関係)

	大卒(総合職)	大卒(一般職)	短大卒	高校卒
MUFJ	174,000	174,000	153,000	
三井住友銀行	174,000	174,000		
りそな銀行	174,000	174,000	153,000	131,000
みずほ銀行	174,000	174,000	153,000	
滋賀銀行	174,000		142,000	126,000
泉州銀行	174,000	174,000	143,000	
近畿大阪銀行	174,000			
大正銀行	175,000		140,000	
びわこ銀行	174,000			
三重信金	168,000			
北伊勢上野信金	178,000	175,000		
桑名信金	182,200			
京都信金	185,000		155,000	
京都中央信金	182,500		153,500	
京都北都信金	170,500		149,500	
大阪市信金	192,000		163,800	
大阪東信金	190,000		160,000	
摂津水都信金	188,000		160,000	147,000
湯浅信金				135,000
きのくに信金	175,000	150,120	145,000	129,000
成協信組	212,500		194,450	
大阪協栄信組	175,000		155,000	
のぞみ信組	188,000		161,000	
大同信組	179,000		155,000	

滋賀銀行従組も独自の取組

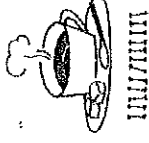
滋賀銀行従組では、従組の紹介などの冊子を独自で作成し、今年は金融労連のリーフなども新たに加えて、新入行員全員に送り、組合加入を訴えています。

また、昨年の金融労連結成以降、幸先よく新たに数名の組合員を迎えたさなみネット(全国金融一般労働組合滋賀支部)でも、今年1月から金融労連新聞や支部の機関紙などとセットで加入の呼びかけを行うなど、積極的に組合員の拡大運動に取り組んできています。

「睡眠 時(あつぎ)を覚ます」といいますが、年をとるとそうもいわず、健康な人でも40歳から中途覚醒が出てくるそうです。眠りは、脳波の特徴から

そこで問題。この1サイクルの時間は①70分②90分③110分のどれか。加齢とともに目覚めが早くなるのは、このサイクルのうち、①・②・③の後の

「からだ」の豆知識
年齢と睡眠時間



「急速眼球運動」が起こるレム睡眠(夢をみる)とノンレム睡眠に分けられ、合わせて1サイクルとなり、これが一晩、4〜5回繰り返されるそうです。

半の深い眠りの時間が減少するため、その結果、浅くて目覚めやすい睡眠になるのだとか。その後に続くレム睡眠も短くなります。(参考)② 90分

AIGスター生命争議支援関西行動へのお礼

3月15日～16日に行われたAIGスター生命争議関西行動へのお礼が高梨さん本人から寄せられましたので、紹介します。

私の解雇以来3年7ヶ月になるAIGスター生命争議の年内解決を目指す関西行動を行いました。

関西でのこの行動が相手にも届く事を確信でき、次への新たなステップとして、帰る事ができました。誠にありがとうございました。

中間の優しさに触れて

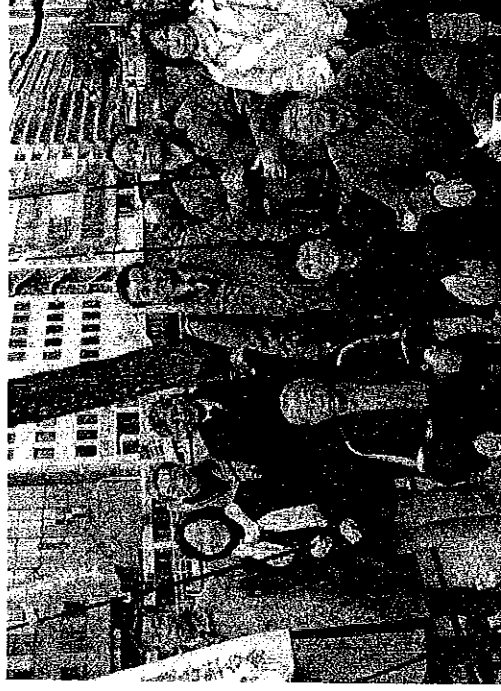
大阪での早朝宣伝には間に合いませんでしたが、近畿財務局前で山根さん(銀産労)の笑顔、全損保の皆様とも合流できホッといたしました。

昼食交流を挟んでの二つのデモ、大阪の町並みを見ながら、荒っぽい車の運転に驚きながらも、高梨さんの荷物を交代で持って頂く、銀産労・牛山さん・川村さんの優しさにうれしくなり、楽しく行進できました。

「菜の花行動」の方々の新バージョンのシ



(大阪・御堂筋を女性が練り歩く「菜の花パレード」)



(左から2人目が高梨さん)

ュプレ、神奈川東京の青年たちの呼びかけシュプレともひと味違うシュプレ覚えたいナーと思いました。

かつての上司が対面

15日の大阪では時間の関係でアリコにはいけませんでした。3カ所の要請ができました。

京阪神総支社では、応接者は驚き、要請書の受取を拒否されましたが、本社への問い合わせもしたようで、全損保や金融労連の多くの皆様の参加を頂き効果があつたと思います。

南近畿総支社では、応接者は、なんと私を雇い止めた時の最後の上司でした。

要請の趣旨も、高梨さんの訴えも、要請書も受け取り伝える事を約束しました。

AIGエジソン近畿エイジェンシー総支社では、合併を前にしてグループ企業として争議早期解決をスター生命に具申をお願いできました。

最後に、難波駅頭でのビラ配布では、小雨も降り出す中、肉声で訴える松島さん(銀産労)に励まされる思いで行動をファイナ

しできました。

地域の幅広い仲間

翌16日神戸での行動でも、3人の方の参加を頂き寒風を吹き飛ばしました。

電車で神戸への六甲の山並みが白く輝き、後で朝の降雪を知りました。六甲おろしの風が寒いのだそうです。そんな中、早朝宣伝にも兵庫労連の丸山さんが、マイクと竿の用意を頂き、元町東口にのぼり旗を林立させることもできました。

全損保・大阪地協の下田さん、そして重工産業労働組合(三菱長船)の書記長さんの計らい、坂本さん山本さんの8名での宣伝では、それぞれの立場からの訴えに熱心に耳を傾け、質問される方もあり用意のビラ500枚は無くなりました。

午後の、大丸前では、阪神・淡路大震災復興会議の岩田さん、姫路から新日鉄広畑の加藤さん。そしてAIG神戸営業所前では、レッドパーシの90歳の方を含む5名のも加わり予備のビラも含め、要請に使用するビラ一枚を残し全て配布できました。昼休み行動では原水協の方々と共同宣伝の場となりました。

レバの5名の方々には、寒いので無理のないようお話しておりましたが、「自分たちは、50年以上も前に理不尽に解雇されました、天気には負けません」と、予めお渡ししておいた資料で午前中勉強して参加頂いたものでした。

要請行動でも、AIGスター生命、アリコ、AIGエジソン全て要請でき、エジソンでは神戸営業所長さんが応接され、AIGスター生命では所長は留守とのことでしたが、皆さん熱心に配っておられるので受け取りました。と既にビラをお持ちのようでした。

この二日間の行動で、大阪金融共闘の皆様やOBの方も含め大きな励ましを頂きました。本当にありがとうございました。

翌日は、嵐山・嵯峨野で美味しい豆腐を頂き元気に帰りました。関西の皆様、これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

法違反まで生む「成果主義」

「近畿のなかま」前号で紹介した「のぞみ信組」での人事考課に見られるように、きわめて主観的な評価につながる弊害が指摘されていますが、結果の数字だけで評価する「成果主義」も矛盾が拡大し、法違反の事態まで生み出しています。

「成果がないと時間外手当つけにくい」

滋賀銀行信組では、職場の意見をもちに銀行に対して、「成果主義賛成金」の見直しを求めています。

成果主義賛成金の導入から3年。職場からは、「成果をあげるためには何でもありで、助け合うところが情報の共有化さえできなくなっている。人間関係がギクシャクして、逆にお客さんが気を使っている。成果がないと早帰りができないばかりか、時間外手当さえつけにくくなっている。パソコンを切つて仕事をしていないような形をとって、仕事をさせられている事態まで生まれている」など、問題が噴出しています。

これでは、目先の「総人件費の抑制」につながっても、企業の将来などありません。

人間が人間を正しく評価したり、結果の数字だけで人間を評価したりすること自体、そもそも無理があり、「思いつがり」である事を謙虚に反省することが必要ではないでしょうか。



投票へ行こう

21世紀に入って政府が地方自治体に対してやってきたことは、「平成の大合併」を押し付け、「官から民へ」公共の事業放棄を進め、「三位一体改革」で地方交付税を大幅に減らしたこと(03年度24兆円→06年度19兆円)。

地方自治の力を奪いながら、「地方分権」を掲げて、福祉や教育など国が負うべき責任を地方に押し付けています。その結果、地域経済は衰退し、貧困が拡大し、過疎化がますます進んでいます。

その中であつて地方自治の力を養って、住民の暮らしを守るために頑張っている自治体もあります。

それは地方自治の担い手が、住民の暮らしを守る立場に立っているかどうかに関わります。住民がそういう人を自治体の首長や議員に選んでいるかどうかによります。

統一地方選の後半戦は4月22日が投票日です。あなたの大切な一票を投じてください。